

製品名: Bad (リン酸化Ser136) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04296**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	

抗原情報

遺伝子名	BAD
別名	BAD; BBC6; BCL2L8; Bcl2 antagonist of cell death; BAD; Bcl-2-binding component 6; Bcl-2-like protein 8; Bcl2-L-8; Bcl-XL/Bcl-2-associated death promoter
遺伝子 ID	572.0
SwissProt ID	Q92934
免疫原	抗血清は、Ser136 のリン酸化部位周辺のヒト BAD 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 102-151

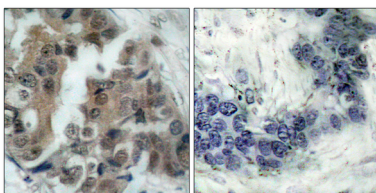
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、BCL-2ファミリーのメンバーです。BCL-2ファミリーのメンバーは、プログラム細胞死の調節因子として知られています。このタンパク質は、BCL-xL および BCL-2 とヘテロ二量体を形成し、それらの細胞死抑制活性を逆転させることで、細胞のアポトーシスを正に制御します。このタンパク質のプロアポトーシス活性は、リン酸化を介して制御されます。タンパク質キナーゼの AKT および MAP キナーゼ、ならびにタンパク質ホスファターゼのカルシニューリンが、このタンパク質の制御に関与していることがわかりました。この遺伝子の選択的スプライシングにより、同じアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが生成されます。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],ドメイン:BIK、BID、BAK、BAD、および BAX は、プロアポトーシス活性、および Bcl-2 ファミリーの抗アポトーシスメンバーとの相互作用のために、完全な BH3 モチーフを必要とします。機能:細胞死を促進します。Bcl-X(L)、Bcl-2、および Bcl-W への結合を競合して、これらのタンパク質と BAX とのヘテロ二量体形成のレベルに影響を与えます。Bcl-X(L) の細胞死抑制活性を逆転させることができますが、Bcl-2 の細胞死抑制活性は逆転させられません (類似性による)。成長因子受容体シグナル伝達とアポトーシス経路間のリンクとして機能するようです。、オンライン情報:Bcl 2 関連細胞死プロモーター エントリ,PTM:生存刺激に反応して Ser-75、Ser-99、Ser-118、および Ser-134 の 1 つ以上がリン酸化され、アポトーシス促進活性を阻害します。Ser-99 または Ser-75 のリン酸化は、14-3-3 タンパク質とのヘテロ二量体形成を促進します Ser-99 は AKT/PKB リン酸化の主要部位であり、Ser-118 はプロテインキナーゼ A (CAPK) リン酸化の主要部位である。、類似性: Bcl-2 ファミリーに属する。細胞内局在: リン酸化されると細胞質に局在する。、サブユニット: 抗アポトーシスタンパク質である Bcl-X(L)、Bcl-2、および Bcl-W とヘテロ二量体を形成する。また、タンパク質 S100A10 にも結合する (類似性による)。Ser-75/Ser-99 リン酸化型は 14-3-3 タンパク質に結合する。、組織特異性: 様々な組織で発現する。、

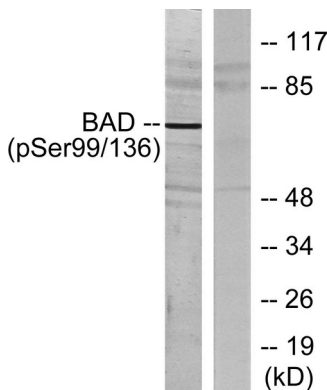
研究分野

ErbB_HER;アポトーシス阻害;ミトコンドリアアポトーシス;アポトーシスの概要;VEGF;接着斑;神経栄養因子;インスリン受容体;アルツハイマー病;筋萎縮性側索硬化症 (ALS);がんの経路;結腸直腸がん;膵臓がん;子宮内膜がん;前立腺がん;黒色腫;慢性骨髄性白血病;急性骨髄性白血病;非小細胞肺癌;

画像データ



BAD (リン酸化 Ser136) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



フォスコリン処理した NIH/3T3 細胞のライセートを BAD (リン酸化 Ser136) 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンにはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。

リン酸化 Bad (S136) ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析

